

練馬区教育委員会教育長賞

『持続的可能な社会を作るための税金』

練馬区立石神井中学校 二学年 山本 清志郎

買い物で商品を購入するとき、「消費税」が課され、商品よりも高い金額を払わなければならぬ。自分のお金が税金として減らされて損をした「気持ち」がしました。このように支払われている「税」とは一体何なのだろう。どのような目的で使われているのか気になり調べてみました。

まず、「税金」とは、国費や公費をまかなうために国民や地域の住民、消費者等から集める金銭のことをいふこと。そして、集まった税金は主に、「国民の健康や生活を守る社会保障費」や「義務教育や年金といった公的サービス」に使われると書かれています。

僕は公立の中学校に通っています。義務教育だから授業料は無料なのは知っていましたが、誰のお金で学校を建て、先生達に給料を支払っているのか考えたことはありませんでした。ここでも税金が使われていると知り、税金を身近に感じました。僕が学校に通う途中の道路も綺麗に舗装されています。交差点

の標識も整備されています。ここでも税金の力が発揮されていると感じました。税金がなかったら誰も公共道路をつくらず、信号機が壊れても修理されないかもしれません。穴の開いた道路や点灯しない信号機など、今の当たり前前の生活からは考えられません。でも、当たり前前の生活の中には、見えない所で税金が活躍していて、僕達の生活に便利と安全を与えてくれていることがわかりました。

また、僕の生活は親のお金だけでなく、多くの人達から集めた税金に支えられていることを知りました。これまでは他人に無関心でしたが、日本では多くの人々が協力し助け合っていることを知り、優しい気持ちになりました。中学生の僕は働いていませんし、親からの小遣いでは自由に使えるお金も少ないので、小さな納税者です。小さな納税者の僕が今できることは何だろうと考えたとき、税金の無駄を減らすことで協力できるのではないかと思いました。例えば、学校等の公共器具を大切に使うことでメンテナンスにかかる税

金を軽減できると思います。また、最近「フードロス」という言葉をよく耳にしますが、食品処理にも多くの税金が使われているので食べ物を残さないことでも貢献できると思います。

僕は大学へ進学したいという夢があります。もう少しの間は小さな納税者ですが、将来は多くの大人達に助けってもらった恩返しを納税を通じてしたいです。そういう税金の循環が継続的に続く社会にしていきたいです。昨日、コンビニで買い物をしました。レシートに印刷されていた消費税を見た僕の「気持ち」は以前と違い好意的に変わっていました。小さな納税者が納税に参加できた満足感が残りました。